

1 取組名称

同窓生—留学生との協働による「東京の魅力」の多言語発信

2 取組組織等

理学部（生命科学科）

人文社会学部（人間社会学科、人文学科）

都市環境学部（地理環境学科、建築学科）

システムデザイン学部（電子情報システム工学科、知能機械工学コース）

健康福祉学部（放射線学科）

3 取組実施代表者名

理学部生命科学科 准教授 黒川 信

4 取組年度期間

平成 29 年度～平成 30 年度（2 年間）

5 取組の概要

複雑化・多様化・国際化が進む社会において、大学教育を通して豊かな教養や高度な専門性を身につけることに加えて、実社会に柔軟に対応し、適応して生きていくための素養（社会性、協調性、国際性など）と社会人基礎力（課題発見力、分析力、コミュニケーション力、交渉力、企画力、発信力など）を具えた学生を育てることが求められている。本取組みは「正課外」の自由度を活かした特色ある新たなプログラムを通して「耐挫折力をもって実社会でたくましく生きていく力」を涵養する。

学生が社会人（同窓生）と外国人（留学生）を入れたチームを組織し、協働作業によりひとつの目標（成果物）を完成させるプロセスを実体験させる取組みを実施し、分担教員はスーパーバイザーとして個々のチームのテーマ設定を専門的視点から支援、時に行動を共にするとともに、活動全体を把握し指導・評価するなど、活動の全般にわたって監督する。目標とする成果物は、伝統、文化、工芸、習慣、祭り、名所旧跡、食、社会、産業、交通、教育、TMU 等々からひとつの「東京の魅力」を見つけてテーマとし、チームで調べた解説コンテンツを、訪日外国人用に英語に限らず多言語化したものである。正課外プログラムという比較的自由度のある枠組みの中で、学生は「東京の魅力」を自ら選び・考え・学び・行動し・まとめ・発信するプロセスを、社会人（同窓生）と留学生との直接的な関わりのなかで実体験する。これを通して彼らは、能動的な学びの楽しさとその意義を実感するとともに、社会との関わりを通して生きる力、社会人基礎力を身につけていくことが期待される。

6 事後評価の総合評定

3. 8 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った5段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 学部横断的に一般の日本人学生と留学生との協働を促進するための仕掛けがうまく盛り込まれたプログラムであると評価できる。また、多言語で東京の魅力を発信するという試みが非常に分かり易くかつ一定の有効性を持つと考える。

- プログラムの実施効果が十分に検証されていると考える。同窓生・留学生のみならず、学外の多くの方との意見交換等も行われ、取り組みが学内のみならず学外に波及した点は、高く評価できる。

- 学生の達成感から自己評価がポジティブに出るのは必然であり、教員目から学生の能力の向上を評価してほしかった。単位化するのであれば、現在のテーマは物足りない感が否めず、より高度な専門知識の修得のプロセスを通して各汎用的能力を養うプログラムにしてほしい。